劇団 **俳優座** 公演 No.327

提携：公益財団法人せたがや文化財団／世田谷パブリックシアター 後援：世田谷区

平成27年度文化庁文化芸術振興費補助金
（トップレベルの舞台芸術創造事業）

作｜安部公房
演出｜眞鍋卓嗣

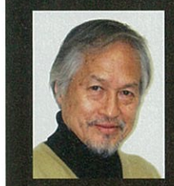
安部公房の世界を
いま、眞鍋卓嗣が新たに描く

城塞
Jōsai
Kōbō Abe

中野誠也、清水直子、斉藤 淳、齋藤隆介、野上綾花

2016年1月6日［水］→17日［日］
シアタートラム［三軒茶屋］

シアタートラム
THEATRE TRAM


中野誠也

清水直子

斉藤 淳

齋藤隆介

野上綾花

「本質は喜劇なのです」
……そんな次第で、登場人物よろしく、死体を抱えてうろつきまわっているうちに、僕はいつの間にやら、ブルジョア家庭の内部に、深入りしてしまっていたのである。いったん、入りこんでしまうと、これもなかなか面白い世界である。彼等は、階級矛盾をこえるものとして、しばしば愛国心や祖国概念を持ち出したりもするが、その本心は、自覚したプロレタリアートと同様に、きわめてきびしい階級的自覚につらぬかれているのである。と言うことは、国家からも、祖国からも、完全に自由な、ただ階級的利害だけしかない存在だということだ。すっかり面白がっているうちに、ふと気づくと、肝心の死体を、どこかに置き忘れてしまっていた。そして、ナンセンス・コメディは、いつの間にやら、深刻きわまる重量級ドラマに変ってしまっていたというような次第である。
こんな打ち明け話は、作品の理解に役立つどころか、かえって混乱をまねく原因になるような気もしないではないのだが……しかし、なぜか、この作品の背景に、そうした喜劇的発想があったことを、やはり一言、ふれずにはいられなかったのだ。つまり、この作品もまた、その本質は、同じ喜劇なのだということである。

安部公房（「城塞」初演パンフレットより）

「演出にあたって」
“戦後”がまだ続いていた事を、私たちはここ数年の出来事で思い知らされている。
流れてしまったと思っていた記憶は、時が止まったままそこに鎮座していたのだ。
今一度、私たちは対峙しなくてはならない。
誰と？
それは「父」だ。
「父」とは私たちの存在を包括している国家そのものを指す。否定すれば己も否定せざるを得ない、まさに出口のない城塞である。
1962年に安部公房が“革命”を題材にして描いたこの作品。
今もなお世界に影響を与えている孤高の天才の視点は、きっと模索する私たちにヒントを与えてくれることだろう。

眞鍋卓嗣

◎車椅子スペースのご案内（定員あり・要予約）
料金：一般席（車椅子スペースが該当するエリア）料金より10％割引（付添者は1名まで無料）
申込：ご希望日の前日19時までに03-5432-1515（世田谷パブリックシアターチケットセンター）へ
◎託児サービスのご案内（定員あり・要予約）
料金：2,000円
対象：生後6ヶ月以上9歳未満（障害のあるお子様についてはご相談ください）
申込：ご希望日の3日前の正午までに03-5432-1526（世田谷パブリックシアター）へ

2016年1月6日［水］→17日［日］　会場：シアタートラム

	1/6［水］	7［木］	8［金］	9［土］	10［日］	11［月］	12［火］	13［水］	14［木］	15［金］	16［土］	17［日］
14:00	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
19:00	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

城塞

開演時間：昼14:00／夜19:00
料金：一般5,400円／学生3,780円（全席指定・各税込）
＊学生は学生証を提示

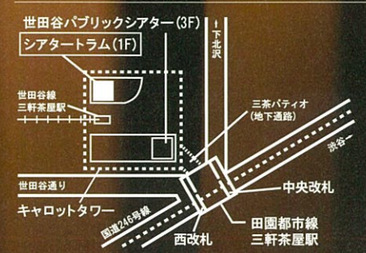
作：安部公房
演出：眞鍋卓嗣
美術：杉山 至
照明：榊 美香（アイズ）
効果：木内 拓
衣裳：樋口 藍
舞台監督：宮下 卓
グラフィックデザイン：近藤一弥
制作：下 哲也

主催：（有）劇団俳優座
提携：公益財団法人せたがや文化財団、
世田谷パブリックシアター
後援：世田谷区

［キャスト］
男：齋藤隆介
男の妻：清水直子
男の父：中野誠也
従僕（八木）：斉藤 淳
若い女（踊り子）：野上綾花

◎前売り開始 2015年11月16日［月］
◎前売場所
・劇団俳優座
03-3405-4743／03-3470-2888
・チケットぴあ
0570-02-9999 http://t.pia.jp/（Pコード：447-101）
・ローソンチケット
0570-000-407 http://l-tike.com/（Lコード：39951）
・Confetti（カンフェティ）
0120-240-540（平日10:00–18:00）
http://confetti-web.com/
・世田谷パブリックシアターチケットセンター
03-5432-1515（10:00–19:00）
・世田谷パブリックシアターオンラインチケット
［PC］http://setagaya-pt.jp/
［携帯］http://setagaya-pt.jp/m/

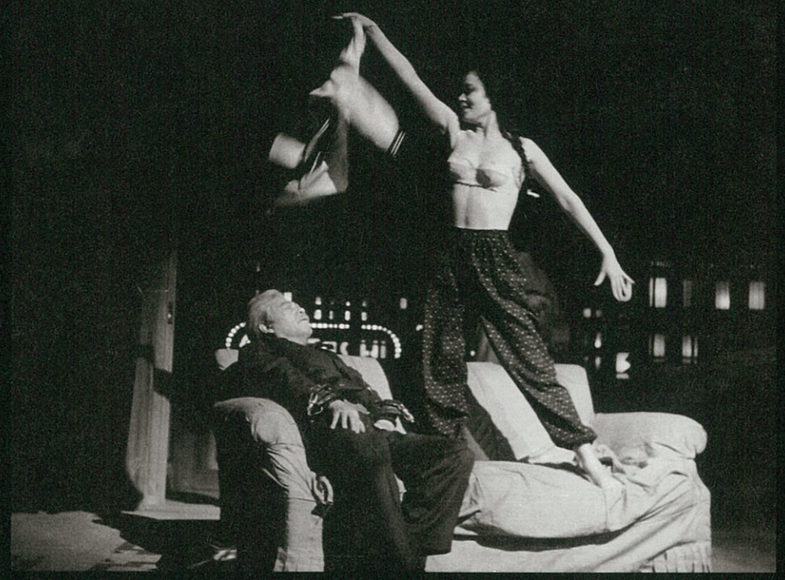
◎お問い合せ
劇団俳優座
03-3405-4743／03-3470-2888
（10:30–18:30 日・祭日除く）
http://www.haiyuza.net
http://www.manabeck.com/jyousai



世田谷パブリックシアター／シアタートラム
〒154-0004 東京都世田谷区太子堂4-1-1 キャロットタワー
Tel.03-5432-1526
三軒茶屋駅（東急田園都市線（渋谷より2駅・5分）・世田谷線）

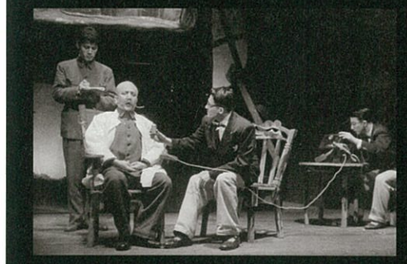
◎劇団俳優座安部公房作品年表［東京公演のみ］

○1955（昭和30）年 第33回公演「どれい狩り」
俳優座劇場　演出：千田是也
○1958（昭和33）年 第44回公演「幽霊はここにいる」
俳優座劇場　演出：千田是也　美術：安部真知
○1959（昭和34）年 特別公演「幽霊はここにいる」
俳優座劇場　演出：千田是也
○1960（昭和35）年 第49回公演「巨人伝説」
俳優座劇場　演出：千田是也　美術：安部真知
○1961（昭和36）年 日曜劇場10「石の語る日」
俳優座劇場・都市センターホール　演出：千田是也
○1962（昭和37）年 日曜劇場14「城塞」
俳優座劇場・都市センターホール　演出：千田是也
○1965（昭和40）年 第64回公演「おまえにも罪がある」俳優座劇場　演出：千田是也　美術：安部真知
○1967（昭和42）年 第79回公演「どれい狩り（改訂版）」
俳優座劇場・都市センターホール　演出：千田是也
○1970（昭和45）年 第97回公演「幽霊はここにいる（改訂版）」俳優座劇場・都市センターホール・日本青年館　演出：千田是也　美術：安部真知
○1971（昭和46）年 第106回公演「未必の故意」
俳優座劇場・都市センターホール　演出：千田是也
美術：安部真知
○1984（昭和59）年 第170回公演「おまえにも罪がある（改訂版）」俳優座劇場　演出：千田是也　美術：安部真知
○2011（平成23）年 ラボ公演vol.28「制服」
劇団俳優座5階稽古場　演出：眞鍋卓嗣
○2014（平成26）年 第322回公演「巨人伝説」
俳優座劇場　演出：眞鍋卓嗣


「城塞」（右より 木村敏恵 永井智雄）1962年

「幽霊はここにいる」1959年

「城塞」（右より 永井智雄 浜田寅彦 木村敏恵 竹内亨）1962年


「どれい狩り」1955年

「巨人伝説」1960年

「おまえにも罪がある」1965年

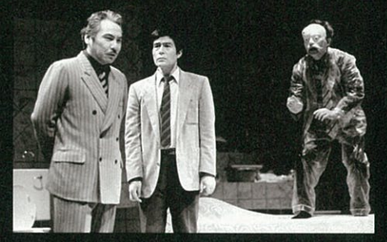
「幽霊はここにいる」1958年

「石の語る日」1961年

「どれい狩り（改訂版）」1967年

「幽霊はここにいる（改訂版）」1970年

「未必の故意」1971年

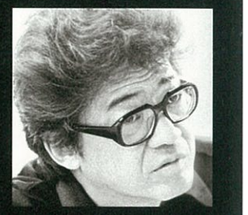

「おまえにも罪がある（改訂版）」1984年

「制服」2011年

「巨人伝説」2014年

城塞 Jōsai | Kōbō Abe

［あらすじ］
舞台はあるブルジョア家族の邸宅の居間。時は現在（初演1962年）、数時間の間の出来事。主人公、和彦という名の「男」の「父」は、拒絶症（終戦直後、朝鮮半島から脱出する直前で時間が止まり、それ以上時が進むのを拒絶している）。現在（1962年）、父の跡を次いで会社の経営者である「男」は、日本軍の飛行機を待っていた時に自分の時間を止めてしまった父のために、その場面を再現するごっこ芝居を行う。その時だけ、父は正気に戻って、母と妹を置き去りにして、男二人で帰国する理由の正当化をはじめる。実の妹はその場で自殺しているので、妹役は、以前は妻の役目であった。しかし、妻の拒否から、今回はストリッパーの「若い女」を雇う。このごっこ芝居にあきれていた妻は、男に対して、父親の入院治療に同意するか、さもなくば、男を禁治産者として経営から手をひかせると脅す。父の入院に同意した男は最後のごっこ芝居を強行する。



◎安部公房［あべこうぼう｜1924年3月7日–1993年1月22日］
小説家、劇作家。東京生れ。満州に育ち、敗戦で引き揚げを経験した。東京大学医学部を卒業。1951年『壁–S・カルマ氏の犯罪』で芥川賞を受賞、一躍注目を集めることになる。1954年に開場した俳優座劇場は、海外の名作を上演していたが、翌年の55年に『どれい狩り』を書き、この公演を機に俳優座のための台本を何本も書き下ろし、千田是也の演出、夫人である安部真知の装置で多く公演された。1962年に発表した『砂の女』が読売文学賞を受賞したほか、フランスで最優秀外国文学賞を受賞。30ヶ国以上で翻訳出版された。戯曲『友達』で谷崎潤一郎賞、『緑色のストッキング』で読売文学戯曲賞を受賞するなど、受賞多数。1973年には演劇集団「安部公房スタジオ」を結成、独自の演劇活動でも知られている。海外での評価も極めて高く、前衛作家たちから根強い支持を集めた。1992年にはアメリカ芸術科学アカデミー名誉会員に。晩年はノーベル文学賞の有力候補と目された。
主な作品　『終りし道の標に』『第四間氷期』『他人の顔』『榎本武揚』『燃え尽きた地図』『棒になった男』『箱男』『密会』『方舟さくら丸』『カンガルー・ノート』など

◎千田是也［せんだこれや｜1904年7月15日–1994年12月21日］
演出家、俳優座創立者。安部公房作品では1955年の『どれい狩り』から『幽霊はここにいる』『城塞』『巨人伝説』など、1984年の『おまえにも罪がある（改訂版）』まで再演、改訂版を含めて11作品を全て演出している。
建築家で発明家の父、伊藤為吉の六男として神奈川県で生まれる。本名は伊藤圀夫。兄は国際的舞踊家の道郎、建築家の鉄衛、舞台装置家の喜朔。ドイツのラインハルト演劇学校に入学し演劇を勉強。1944年、俳優座を創立、1949年に俳優座養成所、1954年に『女の平和』で俳優座劇場を開場。この時期、シェイクスピアと並んで、チェーホフを取り上げて好評を得、俳優座の財産といわれる。同時に、ブレヒト作品の紹介、上演にも成果を上げ、日本におけるブレヒト時代を築いた。西欧の近代劇や古典劇の上演の基盤をつくると同時に日本の作家では真船豊、田中千禾夫、小山祐士、椎名麟三、石川淳そして安部公房らの作品を積極的に取り上げて創作劇の振興に努めた。
主な演出作品　『壊れ瓶』『遁走譜』『三人姉妹』『令嬢ジュリー』『千鳥』『三文オペラ』『復活』『カラマーゾフの兄弟』など多数（安部作品以外のもの）
主な著書　『演出演技ノート』『近代俳優術』スタニスラフスキー『俳優の仕事』など多数。また、舞台・映画にも多数出演している。

◎眞鍋卓嗣［まなべたかし｜1975年–］
演出家。東京都出身。大学在学中から音楽活動、演劇活動を平行して始める。1998年に自身のバンドでメジャーデビュー、2001年まで活動。2002年俳優座研究所入所。劇団俳優座文芸演出部所属。演出家として活躍中。独特のリズム感と自然な演出で、今最も注目される新進演出家のひとり。
［主な俳優座演出作品］
『犬目線／握り締めて』（作：スエヒロケイスケ）『制服』（作：安部公房）
『ある馬の物語』（原作：レフ・トルストイ「ホルストメール」、脚色：マルク・ロゾーフスキイ、訳：桜井郁子）『ヒメハル～ヒメジョオン・ハルジオン～』（作：スエヒロケイスケ）『かもめ』（作：アントン・チェーホフ、英訳：マイケル・フレイン、訳：小田島雄志）『とりつくしま』（原作：東直子、脚本：眞鍋卓嗣）『先生のオリザニン』（作：堀江安夫）『巨人伝説』（作：安部公房）その他外部演出作品あり